

変形性膝関節症

医療法人社団くわのみ会

桑園整形外科

札幌市中央区北8条西16丁目28-30

☎011-633-3636 <http://www.dr-azuma.net>

東裕隆

理事長
院長

あずま・ひろたか／1992年北大医学部卒業後、市立札幌病院救急部勤務。93年北大医学部整形外科入局。2000年カルガリー大学（カナダ）留学。03年市立札幌病院整形外科副院長を経て、07年開院。11年医療法人社団くわのみ会を設立し理事長・院長に就任。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

身体的負担を軽減。保存治療と小皮切の人工膝関節置換術に定評



安めな快明も説明を受け手術する心される



上で実施するようにしています」と患者の負担をできるだけ軽減するように努める東理事長だけに、手術もひと味違う。

人工関節置換術では通常、15〜30センチと大きく切開するが、東理事長は傷口を最小限にとどめる小皮切という手術をおこなうため、3分の1程度の5〜9センチという小さな切開で済む。入院期間は2〜3週間と短縮され、靱帯などの健康な筋組織への影響も最小限に抑えられる。患者の側に立った最小侵襲手術だ。

ともできず、人生の楽しみは半減する。「桑園整形外科」の東裕隆理事長は膝関節のエキスパートとして知られ、これまで

高齢者を中心に膝の痛みで悩んでいる人は多い。全国で820万人、50歳以上の6人に1人が膝の痛みを抱えていると推計されている。超高齢社会に突入した日本では「いかに元気に過ごせるか」が今後の大きなテーマとなるが、膝の状態が悪くなると満足に外出するこ

で数多くの膝痛を解消してきた。膝疾患の代表格と言えは変形性膝関節症だが、これが東理事長が最も得意とする疾患だ。加齢や肥満などにより膝のクッションである軟骨がすり減ること

「患者さんは高齢者が多いため、極力、手術は回避しています。手術を希望される場合でも、症状や患部の状態を十分検討した

合は、膝関節の表面を取り除き、人工関節に置き換える人工関節置換術という手術になるが、東理事長は2012年度188例、累計2000例を超える症例数を持つため安心して良い。

とで慢性的な痛みが発生し、膝関節が炎症することで徐々に変形する。「レントゲンで変形性膝関節症の疑いがある人は、

保存療法で痛みが取れない場合は、膝関節の表面を取り除き、人工関節に置き換える人工関節置換術という手術になるが、東理事長は2012年度188例、累計2000例を超える症例数を持つため安心して良い。

「患者さんは高齢者が多いため、極力、手術は回避しています。手術を希望される場合でも、症状や患部の状態を十分検討した

手術方法は進化を続け、新たに抜糸不要の手術も可能にした。「患者さんにとって抜糸は非常に怖いもの。皮膚ではなく、皮下を縫うことで抜糸をなくしました。抜糸のない人工関節置換術は世界的にも類を見ないと思います。医療もサービスのひとつ。しっかりと治すのは当然であり、そのうえでいかに苦痛をなくすが医師の役割です」



東理事長の手術ならば傷は5〜9センチ程度、抜糸も不要だ

加齢や肥満などにより膝のクッションである軟骨がすり減ること

とで慢性的な痛みが発生し、膝関節が炎症することで徐々に変形する。「レントゲンで変形性膝関節症の疑いがある人は、

保存療法で痛みが取れない場合は、膝関節の表面を取り除き、人工関節に置き換える人工関節置換術という手術になるが、東理事長は2012年度188例、累計2000例を超える症例数を持つため安心して良い。

「患者さんは高齢者が多いため、極力、手術は回避しています。手術を希望される場合でも、症状や患部の状態を十分検討した